

## 国立大学法人横浜国立大学長の業務執行状況の確認結果について

令和4年7月22日

国立大学法人横浜国立大学

学長選考・監察会議議長 相澤 益男

学長選考・監察会議は、国立大学法人横浜国立大学学長選考・監察規則第10条第1項に規定する学長の業務執行状況の確認について、下記のとおり行った。

### 記

#### 1. 確認の経過・方法等

- (1) 学長選考・監察会議議長から学長に「学長選考会議における学長の業務執行状況の確認について」通知した。(令和4年3月18日)
- (2) 令和4年度第75回学長選考・監察会議(令和4年6月3日開催)において、「国立大学法人横浜国立大学長の業務執行状況の確認及び業績評価実施要項」により、学長が作成したプレゼンテーション資料に基づき、学長によるプレゼンテーションが行われ、学長選考・監察会議委員との質疑応答を行い、業務執行状況の確認を行った。
- (3) 令和4年度第76回学長選考・監察会議(令和4年7月22日開催)において、令和3年度の「国立大学法人横浜国立大学長の業務執行状況の確認結果について」を決定し、学長選考・監察会議議長名で公表するものである。

#### 【配布資料】

「学長プレゼンテーション資料」

#### 2. 確認結果

##### (1) 大学経営

##### ① 評価する点

- ・財政改革を打ち出し、人件費シミュレーションをもとに新アクションプランの策定を進めるなど、経営マインドをもって積極的な大学運営をしており評価できる。

- ・働き方改革を進め、監査体制を強化するなど、ガバナンス改革への実践的取組を進めており評価できる。
- ・学長補佐体制を強化し、女性、若手を積極的に抜擢しており評価できる。

#### ②期待・要望する点

- ・財政改革方針と新アクションプランが策定され、その成果に期待する。
- ・学長補佐に女性、若手を積極的に任命し、人材の多様性の確保が図られることは、今後の改革に大いに期待できる。
- ・財政改革においては、人事マネジメント改革と並び、外部資金導入を財政改革の中軸に位置付けるとともに、ガバナンス強化の軸を明確化するべきである。

### (2) 教育

#### ①評価する点

- ・学部教育では、SDGs 実現に向けてユネスコチェアプログラムの導入など様々な取組を推進しており評価できる。
- ・実践力の高い専門人材の育成を目指すプログラムの開設や分野横断型の先進実践学環の設置など、着実に改革が進んでおり評価できる。

#### ②期待・要望する点

- ・先進実践学環が、博士後期課程に展開されることは非常に意義があり、これを契機に文理融合研究がさらに進むことを期待する。また、国研（国立研究開発法人）との連携大学院構想の推進など産学官共創の場形成に向けて、今後の展開に期待したい。
- ・横浜国立大学ならではの個性的なプログラムや突出した個人を育てると同時に、それ以外の日常的な教育活動や学生集団の全体を視野に入れて、一人一人の学生の行動変容につながっているかという観点からの目配りを期待する。

### (3) 研究

#### ①評価する点

- ・研究力強化スキームは、YNU の研究戦略として位置付けられ、「台風科学技術研究センター」の新設をはじめ、様々な取組を果敢に展開しており、学長のリーダーシップを高く評価する。
- ・広く海外を含む学外に目を向け、多様なパートナーとの連携により、さらなる向上を目指すという志向が明確に示されていることは高く評価する。

#### ②期待・要望する点

- ・「各部局の目的、専門性、自由な発想に基づく多様な先端研究及び基礎研究の展開」に十分に裨益しうる仕組みの構築と運用に期待したい。
- ・我が国初の「台風科学技術研究センター」が、先端的な研究成果を挙げ、そ

の成果を社会に実装できるようになるとともに、本学の誇るべき広告塔として、国内外の研究機関を巻き込み精力的に活動を展開し、世界に向けて積極的に発信していくことを期待する。

- ・横浜国立大学が進める各学術分野の研究は、産学官の各主体との連携でより深化すると思われ、現在、企業と連携を強化されているものの、まだ十分とは言えず、さらなる創意工夫を期待したい。
- ・今後あらゆる研究分野において、さらに企業との連携を強化していくべきである。企業との共同研究は、アカデミックの領域とビジネスの領域とが融合し、イノベーションを継続的に生み出すエコシステムを作っていくことが重要で、具体的な施策を実行していただきたい。

#### (4) 地域及び国際

##### ①評価する点

- ・産官学民連携プラットフォームを学長として主導し、イノベーション・エコシステム構築に向けた取組みが戦略的に行われ、学長のリーダーシップが大いに発揮されていることを評価する。

##### ②期待・要望する点

- ・横浜国立大学がハブとなり、国内外の多様な連携を実現し、新たな国際共同研究や国際教育プログラムなどが生まれることを期待する。
- ・国際については、方向性が提示された構想まで詰められていない。構想の具体化と戦略を提示いただきたい。

#### (5) 総評

- ・大学全体として教育研究の充実向上を図るうえでの大きな枠組みが打ち出され、学長自らの率先的な行動と共に、学内外の関係者がその方針を共有しつつ、協働を促す仕組みを構築するなど、学長の業務執行状況は十分に本会議の期待に応えるものである。
- ・なお、学長就任時に宣言している「学長ビジョン」の策定を急ぎ、そこに掲げる目標の達成に向けた戦略の大枠を示し、現在果敢に進めている取組みの位置付けを明確にすることが望まれる。
- ・また、今後、学長のリーダーシップの下、各部局や教職員とコミュニケーションを密にし、遅滞なく改革に取り組み、質の高い人材の輩出を学長主導で進め、さらに横浜国立大学の価値を高めていただきたい。学長の任期期間だけでなく、中長期的に横浜国立大学が揺るぎなく発展を遂げられるように取り組まれることを期待する。

以上